

# 鈴木ひとみ市政報告



## ごあいさつ

明けましておめでとうございます。令和4年は戦争やコロナに振り回された年でした。各地で大きな自然災害も起きました。今年はそれらが治まって穏やかな年になることを心から願います。このお正月、市内の宿泊施設は観光客でいっぱい。久しぶりに帰省した人たちも多く、賑わいを取り戻したように思えました。東京から程よい距離にあって自然豊かで暖かなこの土地の魅力を発信しつつ、暮らしやすい街づくりを進めていきたいと思います。

鈴木ひとみ

## 令和4年12月市議会定例会 一般通告質問より

### 「館山を離れた若い人」が戻ってくるために ～ここで暮らして働きたいと思えるまちに～

森新市長の選挙公約の一番がこの課題でした。館山で育った子どもたちの多くは就職や進学のために市外へ出ています。若い人たちが一度は故郷を離れて自立することは良いことです。市外へ出て、知識を広め、多くの経験をして成長する。夢を求めて羽ばたいていくことは、応援したいと思います。

その上で、やはり故郷へ戻りたいと思えるまち、ほかの土地で育った若者がここで暮らしたいと思えるまちを作っていきたいと考えます。

まず、一番の魅力である自然を守り、子育て環境、公共交通を充実すること。移住したい人を快く迎え入れ、起業したい人を応援する体制の整備が必要です。市内の多くの産業で高齢化が進み、慢性的な人手不足に陥っています。若い人たちを迎えるにはどうすれ

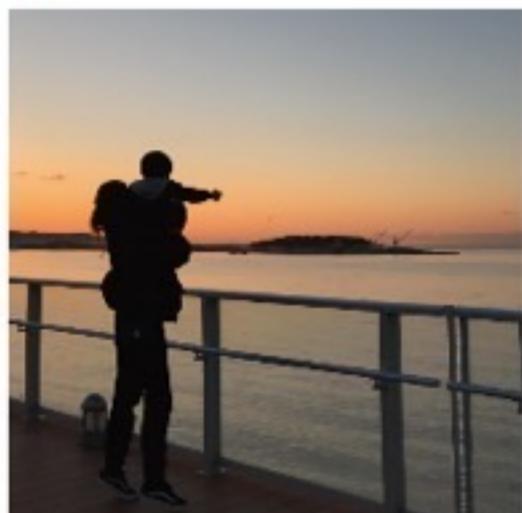


ばよいか考えてみませんか。

コロナ禍で生産拠点を国内に戻す企業もあります。それらの企業を誘致するためには、水とエネルギーの供給が大切です。特に、再生可能エネルギーを地元で供給できることはとても有利な条件になります。太陽、風、波のエネルギーを活用することが今後の課題です。

### 子育てについて

～ここで子育てしたいと思えるまちに～



全国的には当たり前の3歳児の幼稚園枠が館山市の公立幼稚園、こども園にはありません。「家庭での保育に欠ける」という条件に当てはまらない3歳児は、市内に唯一の私立幼稚園でしか教育を受けることが出来ません。

核家族化が進む中、集団の生活で様々な体験をして成長することは子どもにとって大切です。どの子も希望すれば幼児教育を受けられる環境の整備は早急になされるべきです。

また、多くの自治体が家事支援、育児支援を充実させることで若い世代を呼び込もうとしています。この点に目を向けていかないと、益々少子高齢化が進みます。定員割れが続いている幼稚園の統廃合により、保育士の余裕を作れば、こども園、保育園が在宅育児の支援を行うことも可能です。

# 市民協働事業について

## ～地域課題解決のために 市民が参画できる場づくりを～

森新市長は、「行政任せでなく、市民の皆様も一緒に考え、知恵を出し合い、心を一つにして共に歩み、夢と希望の持てる館山を、笑顔あふれる館山をみんなでつくっていけるよう、これからも市民協働のまちづくりを推進していきます。」として、市民が市政に参画するよう訴えています。

これを可能にするために、市民が参画できる場をつくること、市側の市民の提案を受け入れる姿勢が必要です。

無作為抽出により選ばれた市民が、市の課題について検討する「自分ごと化会議」が全国的に行われ、大きな成果を上げています。また、市民の発案、地域課題解決のチャレンジを積極的に受け入れている自治体では、地域が活性化しています。

館山市では、市民協働事業の見直し、市民が市政に参画する場づくり、市民の提案に対する市の対応の見直しを進めるべきと考えます。

## 秋の研修視察報告

市議となって初めて他の自治体に研修視察に行くことが出来ました。「市民による地域課題解決」を大きなテーマとして訪問先を選びました。また、「平成の大合併」により合併した市の市役所がどこも立派で機能的なことも印象に残りました。

### ■総務委員会…島根、鳥取方面

#### \*雲南スペシャルチャレンジ(島根県雲南市)

ふるさと納税を使って、子どもから大人まで、様々なチャレンジを応援する仕組み。雲南市が住みたいまち1位になっている。



#### \*ご当地ナンバー導入(島根県出雲市)

出雲市は近隣1市2町で「出雲」ナンバーを導入。市民の切り替えも進んでいる。

#### \*出雲大好き1ターン女性支援助成金(島根県出雲市)

市外から移住した女性と雇用した事業所に助成金を出す仕組み。助成を受けるには、SNSで出雲の魅力を発信することが助成の条件となっている。

#### \*イエローバス(島根県安来市)

民間バス会社が市内のバス路線から撤退したことを受け、市が自ら「住民福祉」の観点で運営している。事業継続のために、デマンド交通への切り替えや運行便数の検討も進められている。

#### \*百人委員会(鳥取県智頭町)

住民による「百人委員会」の政策提案を予算化し、事業として行っている。「知恵がなければ借りればよい」という町長の言葉が印象に残った。

### ■新政クラブ…鹿児島方面

#### \*次世代エネルギーの まちづくり(薩摩川内市)

川内原子力発電所があり、東日本大震災後、原子力発電所の安全強化とともに、太陽光、風、水力、バイオマスなど再生可能エネルギーの活用に取り組んでいる。



#### \*ごみの再資源化(大崎町)

生ごみのたい肥化、その他のごみの再資源化を進めることにより、町から出るごみの83%以上をリサイクルしている。

#### \*鹿屋100チャレ(鹿屋市)

鹿屋100チャレは当初首都圏の高校生から、市が抱える地域課題の解決に対するアイディアを募集した。今では全国の高校生から地域課題解決のための提案が寄せられている。

#### \*再生可能エネルギーによるまちづくり(肝付町)

地域電力会社を立ち上げ、再生可能エネルギーの活用を進めている。



おわりに 昨年、たてやまビーチクリーンボランティアネットワーク主催で「きれいな海の絵と写真コンテスト」を行いました。応募者からは、「きれいな海を大切にしたい」「館山の海の豊かさに感動した」「海中のごみの多さに驚いた」などの声も寄せられま

した。皆さんのお気持ちを大切にして「きれいな海のまち館山」キャンペーンを展開したいと考えています。館山の海の魅力を発信するとともに、山や町から海へごみが流れ出ることも防ぎたいと思います。ご協力をお願い致します。

